特定非営利活動法人

ロングステイクラブ®

２０１４年　秋季号　ＶＯＬ.９０

～第二の人生を豊かに～

Long Stay Club

２０１４年　秋季号　ＶＯＬ.９０　目次

【巻頭言】

人気の高いハワイでのロングステイ事情　塚本茂・・・・・・・・・・　１

【海外旅行滞在記】

フランスレールパスの旅（２）　遠藤華子・・・・・・・　２～８

【クルージング】

楽しかったクルーズでの思い出　中井川久男・・・・・・９～１７

【国内ロングステイ】

京都衣笠総門日記　森口宜高・・・・・・１８～２４

【チャレンジ編】

ＴＯＥＩＣへの挑戦　森川浩司・・・・・・２５～２６

【ＬＳＣイベント】

９月座談会と１０月四谷ロングステイスクール　２７

【編集後記】　２８

（表紙写真提供　奥日光小田代が原草紅葉　大野康昭）

【巻頭言】

人気の高いハワイでのロングステイ事情

ＮＰＯ法人ロングステイクラブ理事長　塚本茂

何度も海外旅行を経験してみると、あちこち忙しく回るのではなく、気に入った土地でしばらく住んでみたくなります。物見遊山ではなく目的を持って滞在したいと言うように長期滞在を希望する人ができても不思議ではありません。長期滞在となると、どうしても時間とお金が必要となってくるので、誰にでも向く旅行スタイルではないし、おんぶにだっこの団体旅行ではないので、自己責任が伴う。しかし海外旅行のスタイルが多様化して来た時代から長期滞在希望者は確実に増え、「ロングステイ」という言葉は市民権を得る様になった。

その背景には日本人のライフスタイルに対する意識の変化、インターネットの活用、滞在地の受け皿などロングステイしやすい環境の整ってきたことがあげられます。こうしたロングステイヤー台頭に世界都市のいくつかはロングステイヤーが住みたい都市として上位にランクされている「オアフ島」の日本人ロングステイの事情を考えてみた。

ロングステイといっても行先によって異なります。東南アジアのように人件費が安い処にいると、上げ膳、据え膳に慣れているので真のロングステイヤーの対象にはなりくく思えます。東南アジアはたしかに生活費は安い、ところが人間というものは面白いもので最終的には物価が安いというだけで満足感が満たされるかというと、これが違う。日本人が考える清潔感のレベルや治安、食べ物を考えると、やはりハワイは、日本人にとってロングステイの条件に合った最高の場所と思います。ただ長期滞在するには安全で、きれい、そして手頃な価格の宿泊施設は限られています。また、ハワイの人たちが日本で安く快適にロングステイしてもらえることも大切で、旧知のロータリークラブメンバーを通じて、日本から「ハワイに行くだけでなくハワイに住んでいる人が日本でのロングステイを体験しませんか」と呼びかけています。

フランスレールパスの旅　　（その２）

会員　遠藤華子

コートダジュールへ

３月９日からレールパスを使うため前日駅の窓口へ行き、これから乗る列車の予定表を出して座席の予約とバリデーションを頼んだ。バリデーションとはパスを使い始める日と名前、パスポート番号を出札の係員に書き込んでもらうのである。自分で勝手に書き込むと無効になったりするので注意するようにとパスを申し込んだ時から何度もいわれていた。そして 9 日から 15 日まで予定していた列車の指定券を頼んだのだが、既に満席で予約が取れないという列車もあり早い列車に変更したり逆に遅い列車に変更したり、思いのほか手間がかかった。列車に乗り込んで空いている席に座り予約の人が来たら席を動けば良いともガイドブックには書かれていたが、ここは慌てないようにしっかり指定席を取っておいた。　ニース行きは当初８時半出発の予定でいたが席がないとの事で７時半の列車になり、遅れてはいけないので駅の近くに宿を取り６時半には駅についていた。ちょうど朝日の昇る時間でマルセイユの快晴の空があさひに赤く輝き早朝の空気がひんやりとしていた。駅には簡単なカフェもあり食べる物はなんでも揃っている、軽くクロワッサンとコーヒーで朝食をとり駅の電光掲示板の表示を注意してみていた。

（列車の表示板）

パリ行きエクサン・プロバンス行き等 15 路線が乗り入れ、いくつもの表示が出ていてホームの番号の表示されるのを待っていた。年間 1500 万人が利用するということだが、何か 100 年前の風情をのこしているような駅で、自動改札ではなく自分で黄色のポールに切符をあてて指定のホームへ行くがそこで駅員が１枚１枚の切符を見て車両の案内をしてくれ、さらに車両の前に駅員がいて切符を見て車両があっているか確かめている。駅員がやたらに多いように思えたが、肝心の列車は 5 分遅れ、15 分遅れと表示され遂には 50 分遅れの出発となった。地中海に沿って走るこの路線はしゃれた別荘と美しい海の気持ちのよい景色だ。オレンジ色の屋根とベージュ色の壁、庭には決まってオリーブやレモンの木があり明るい太陽の下で輝いていて、海から急に山になった斜面に瀟洒な建物が点在している。細々とした漁業とレモンの生産で生活していた地域が世界の保養地となっていったという。カンヌを過ぎた頃急に海の向こ

うに雪を抱いた高い山が見えて来た。イタリアとの国境の山で北に連なって冬期オリンピックの開催されたグルノーブルやスイスのアルプスに続く山のようだった。50 分遅れで出発した列車が遅れを取り戻そうとスピードを上げて走るかと思ったが予定通り 50 分遅れでニースに着いた。

ニースは大きな町で 1880 年に建てられた駅から海岸まで歩いて２０分程、海に面してホテルが並んでいる。町の広い道路にトラムが走り私たちの宿は駅から 7,8 分、トラムの通りに近いユースホステルで２泊約 50 ユーロ 7200 円ほどだった。とりあえず荷物を預け昼食に行くが大きな通りから路地に入ると小さなレストランが軒を並べていた。安い所は中華料理の店があるが脂っこい炒め物が多い。アラビア料理の店があり肉を串に刺して焼いたケバブとサラダ、チャーハンのようなご飯がついて手頃な値段で食べられる。昼ご飯をしっかり食べて駅に向いモナコへ向った。

レールパスは利用する日は１日中乗れるので途中下車して又乗る事もできる。モナコ迄は３０分程で、立派なヨットが繋留されている小さな入り江に面した２㎞平方程の国なのでオープンバスに乗っても１周してもたいした時間もかからなかった。２周したのだがモナコグランプリで走るあのコースも含まれている。道は蛇行しながら山の斜面を登り大きな岩場の上にモナコ公国の宮殿があり観光客が広場のカフェでお茶をのんでいた。海の近くの一角には公共団地のような建物群があり若い家族連れが散策していた。モナコ市民の住宅らしく税金の要らないという町は３万人の人口がありモナコ国籍の女性と結婚した外国人のみ国籍を取得できるとの事だった。観光客の多い町だが別荘のように住んでいる人も多く中田英寿やクルム伊達もモナコ在住との事で身なりの良い人が沢山いた。

（モナコ風景）

モナコからニースに戻る列車の途中にエズという駅があった。有名なエズ村で、ここにあったのかと改めてガイドブックを読んでみた。ニースで見たいのはマティスの美術館とマティスが内装を手がけたロザリオ教会だったので他の事はそんなに調べていなかった。

ニースに戻り途中のスーパーで果物とサラダを買ってユースホステルに帰った。ユースには台所があり各国の人達が様々な物を作っている。私たちはサラダとスープ。お餅を持っていたのでお餅を温めてスープに入れて夕食にした。昼にしっかり食べると夕食はこれくらいで丁度良い。ユースに若い日本人の女の子がいて、旅行会社にこの４月から勤め始めるという。北欧から入りユーロパスを使ってヨーロッパを一回りして、明日スペインにバスで移動しバルセロナから帰国するとの事だった。お餅食べますか‥と言うと喜んでいた。

翌日海岸に行くと魚釣りをしている人達がいたり、海岸通りにはホテルが建ち並び椰子の木とともにニースの代表的風景だ。インフォメーションで地図をもらいマティスの美術館とロザリオ教会のあるヴァンスへの行き方を確かめておいた。海岸通りから出るオープンバスに乗り町の案内を聞きながら美術館迄行った。美術館には絵そのものはあまりないのだが、制作にいたる素描や教会の模型などがおもしろかった。再びオープンバスに乗って海岸迄戻り昼食をとってから路線バスでヴァンスに向った。１時間半程乗ったがバス代は 1.5 ユーロで、フランス全土で路線バスは 1.5 ユーロ程で時間に関わりなくほぼ同額でとても安く日本に来る外国人が日本の交通費の高さに驚くと言うが納得出来る気がする。

ヴァンスの町へ着き、住宅の点在する丘を 15 分程歩くとロザリオ教会があった。もともと古くから教会堂はあったのだが改修するにあたってマティスに依頼したというが明るい青を基調にしたステンドグラスが、荘厳な教会と言うよりおしゃれな楽しい教会となっていた。ヴァンスの町には城壁で囲まれた旧市街があり、ここの古い教会堂にはシャガールの描いた壁画があった。ヴァンスの町から帰るバスの中からかなり大きな中世の城塞都市サン・ポード・ヴァンスが見えたがここはシャガールの絵のモチーフとなった町だった。石を使った建築物は朽ちる事なく何世紀も使われて芸術家のモチーフとなっていつまでもそこにある‥凄いなと思う。

（ヴァンスの教会）

（ヴァンスの旧市街）

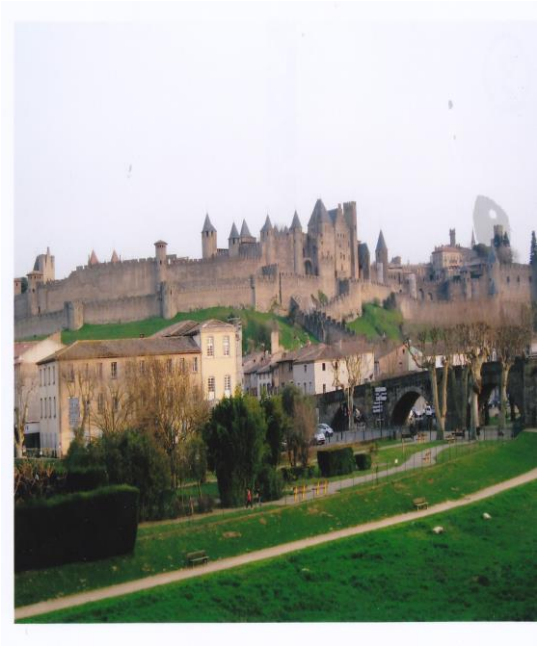
カルカッソンヌ、ツールーズへ

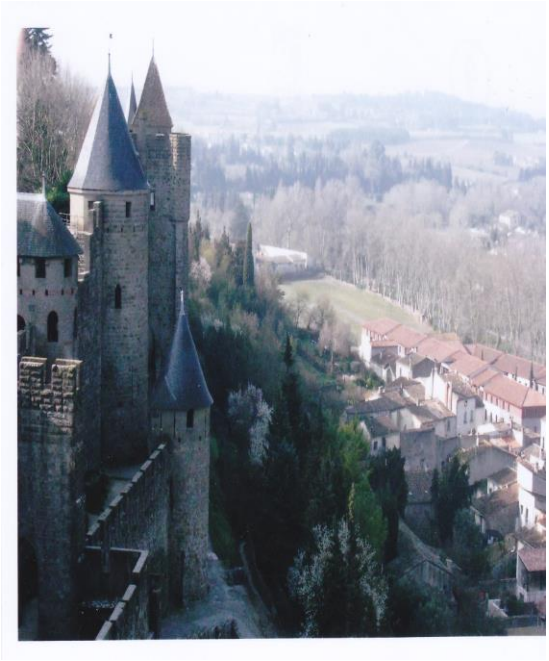
カルカッソンヌへ行くには列車の本数は少ないので時間に気をつけなければならない。８時 55 分の列車でマルセイユ着が 11 時 29 分 3 時間程の待機があり 14 時 18 分発でカルカッソンヌ着が 17 時 27 分という 1 日がかりの移動となる。途中マルセイユで時間があるのでにほさんの店に寄った。

カルカッソンヌは古い城塞の町で様々な戦災にさらされながら起源は 2600 年前という。かなり昔に内戦が終わり城塞は無用となり長い間近くの人々がその石を使って家を作るため随分と崩れ果てていたという。それが世界遺産に早くから認定されたため以後城塞の修復を工事が続けられている。城塞はかなり大きくレストラン土産物屋、ユースホステルもその城塞の中にありユースホステルには小学生の団体がいて広場の芝生で授業を受けていた。ユースにドイツ人の年配の男性客がいて台所でじゃがいもやソーセジを茹でたりしていた。そのうち英語の解る文子さん相手に昔はびっくりするような高い報酬の仕事をしていてと延々と自慢話をしている。それでは今のこれはなんなのよ・・・と言いたいが黙って聞いていた。ここの人達は粗末な食事でもワインを飲む。水代わりであり野菜の種類が少ないのでワインを飲んで食事のバランスを取るように思えた。翌朝食堂に日本人の若い女の子がいて、おはよう！と声をかけるとこちらを向きにっこりして次の瞬間あ！日本語とにこにこした。パリにお菓子のパテシェ修行に来ていてこの日は休暇を取って旅行しているとのことだった。

城塞内の博物館が 9 時に開き見学と城郭めぐりをしたが、城内は随分と広く小さな庭のついた住宅がいくつもありホテルまであった。城は常時修復作業をしていて作業が終われば次というように続けているとのことだった。城塞をしっかり見学しバスで駅に行き駅前

のレストランでカシスという大豆と鶏肉を煮込んだ美味しい名物料理をたべた。





（カルカソンヌの城塞）

ツールーズへは 13 時 04 分の列車で行く事になっていて 14 時 04 分ツールーズ着、そこに先輩の高橋さんが迎えに来てくれることになっていた。ところが駅に行くと列車の表示がバスの表示に変わっていた。今日は列車ではなくバスに変わったと当たり前のように言うのだ。とにかくバスに乗り高速でも使って時間通り運行してくれるのかと思ったら、途中のローカルな駅も満遍なく停まりツールーズには 1 時間 20 分も遅れた。駅に先輩は待ってて下さってここではこんな事も日常茶飯事のことのようだった。

車で 30 分程の先輩の家は松林に囲まれた素敵な所だ。陶芸家をしていて個展を開いたり陶芸を教え庭には自分で作った穴窯もあった。フランス人は芸術家に理解がありまた自称芸術家という人も多い。奥様はフランス人で子供向けの創作劇を自作の衣装を着て演じていて世界的にも有名な方である。リビングの壁に天井までの収納棚がありそこに劇に使う衣装等が納められていてリフトの昇降機が付いていた。夜はおいしいワインとチーズ、ハムなどごちそうになり遅く迄話をした。翌日陶芸の生徒さんが見えるとの事で私たちはバス停まで送ってもらったがバス停にコンビのような店がありここでもグラスワインが飲める。そのワインがここでしか飲めないというワインですっきりとしたびっくりする程おいしいワインだった。

（ツールーズの高橋先輩宅）

（高橋先輩の奥様メルセデスさんと）

SJP ポール・バイヨンヌ

この日はボルドー、バイヨンヌを経由してピレーネ山脈の SJP ポール迄行くため列車が遅れるといけないので早めの列車に乗った。ボルドーの町はワインで有名な大きな町だ。その昔フランスからイギリスに嫁いだ姫君がこの地区を嫁入りの持参地としたためイギリスの管轄になり取り戻すのに 300 年もかかったとの事で、この頃イギリスは景気が良かったのでワインの注文をボルドーに出しその結果ボルドーワインの品質が一気に良くなったとのことだ。

しかし心配した通り列車は遅れバイヨンヌからのローカル線に間に合わなかった。ところが駅に着くとタクシーが手配されていて 4 人ずつ分乗し 5 台程のタクシーがでた。タクシーに 2 人の青年が同乗しこの青年達はスペインサンチャゴへの巡礼道を歩くようで SJP ポルトはサンチャゴへの巡礼道の 1 つの入り口の町であった。2 人の青年はこのタクシーで一緒になり共にサンチャゴへ行くと判りすっかり意気投合して‥俺たち 40 日家も仕事もない‥と気炎をあげた。仕事が嫌になって気分転換したい時などサンチャゴに巡礼に行くというと大目に見られるようだった。1 日 20 キロ歩き 40 日で踏破するのが標準的コースのようだ。SJP ポールも城塞の町で古い道沿いに巡礼宿が並んでいた。夕食で近くのレストランに入ると韓国人の 8 人程の若いグループがいてこの人達も巡礼に行くとのことだった。

翌日ゆっくり朝食をとり外にでると並んでいる宿の入り口には建物の建築年が記されていた。1604 年等どこも古い建物で石畳の狭い道は摺り減るほど人々が歩いて行ったようでここを歩いて 800 キロ先のサンチャゴを目指したのだろう。巡礼の人達は朝 7 時頃出発するそうでもう誰もいなかった。巡礼道はナポレオンロードといわれナポレオンがスペイン

からピレーネ山脈を越えてやって来た道だ。坂道を見上げると空が広がり坂を上がって行くとピレーネの山に続いている。あそこ迄いったらどんなだろうかと思った。丘陵地帯に緑の牧草地が広がり牛が放牧されていて梁のある白いこの地方独特の家が点在し本当に美しい景色だ。

バスク人の住むこの町は道路の標示はフランス語とバスク語で描かれていた。ベレー帽はバスクの帽子でベレーを被った小柄なおじさんがいてこの人はバスクの人だ。私もベレーを買って被って歩いた。まちの人達が良いねと親指をたててにこにこしていた。石畳の道の店の中にスポーツ用品店がありここでリュック等揃えて巡礼に出る人もいるようで品物は充実していて文子さんはストックを買った。昼には川沿いのレストランで鱈の料理を食べ古い教会堂や城塞へ上った。城壁はそのまま使われ中は学校になっていてピレーネの山々を見ながら勉強出来るのは気持ちが良いだろうなと思えた。街道に面した建物に古いプレートがあってフランシスコザビエルとかいてある‥後で調べてみるとザビエルのお父さんの家のようだった。ピレーネの麓の人口僅か 1500 人はほどの町だったが、心に沁み入るような美しい町だった。

翌日ローカル線でバイヨンに向った。列車の中に大きなシェパードが２頭おとなしく乗っていて犬はゲージに入る事もなくよく列車で見かけた。バイヨンヌはニーヴ川沿いの大きな町でビスケー湾に近くチョコレート発祥の地そして生ハムの美味しい所である。ホテルはインターネットで探した駅に近い川沿いのホテルで、大きな部屋を 2 つに仕切り最新のバス、トイレがついていて 80.6 ユーロだった。

広場でフリーマーケットが開かれていてその中に有田焼きの良い皿があった 150 ユーロだったが急に 100 ユーロに値を下げたが荷物になるので止めておいた。インフォメーションにいって町の名所など聞き文子さんは美味しいレストランもしっかり聞いて来た。レストランは風格のある佇まいで年配の方が多く 1 人できちんとした服装で食事をしているご夫人もいた。ご夫人の食べておられたホタテと隣で食べていた魚料理を頼むと隣の人もご夫人も美味しいわよ‥と親指をたててくれた。食事のあとカメラが壊れたので新しい物を買いに行きキャノンのカメラを買ったが２万円程だった。その後バスク博物館にいったり本屋で地図を探したりし、そしてとびきり良い生ハムとサラダ、ワイン、パンを買いホテルの部屋で夕食にした。

翌朝 7 時 25 分の列車でボルドー着 9 時 9 分、ボルドー発 10 時 47 分マルセイユ 16 時 42 分着でマルセイユに戻った。この間 4 日分のレールパスを使い 5 日目のパスでもう一度コートダジュールの香水の町グラースへ日帰りをして２週間目に文子さんはブラジルに帰っていった。

（完）

「楽しかったクルーズでの思い出」

会員　　中井川久男

クルーズの世界へようこそ！　　私とクルーズとの出会いは、若き日に外航商船の船舶通信士として約８年間勤務した中で、地中海航路に乗船中、ギリシャのピリウス港で大型客船と出会い、いつかは仕事でなくお客としてあのような客船で船旅がしたいという思いがあり、それが定年退職の記念に横浜発着の「レジェンド・オブ・ザ・シーズ」に初めて夫婦で乗船し、その思いが実現したのです。それ以来すっかりクルーズファンになってしまい。年に３～４回出かけていますが、そのたびに新しい出会いや再会がありそれも楽しみの一つになっています。

今回は、昨年９月に横浜発着の釜山・長崎に寄港する「コスタビクトリア」(7 万５千トン）でのクルーズに参加し、その楽しかった思い出を日記にまとめてみました。　これを機に一人でも多くのクルーズファンが増えることを願っています。

それでは、６日間のショートクルーズをどうぞお楽しみ下さい。

初日（22 日）

旅行社から送付された予定表では 11 時半から横浜大桟橋にて乗船開始とあったが、２日前に台風の影響で入港が遅れ 13 時半に変更になったとの電話連絡があった。

そういえば、台風 18 号が 16 日に関東を直撃した日は、同船の横浜入出港の日であったが、ネットを使って大桟橋ライブカメラで確認したところ入港していなかった。

乗下船客はどうしたのか他人事ながら、次のクルーズに参加する私は、スケジュール変更があるかも知れないと思い心配していたのである。

今回は、船までの荷物送料が他のクルーズの時の 2 倍以上であり、また、一人参加で荷物が少なかったので持参することとし、関内駅から船までタクシーを使うことにした。（それでも送料の 1/4 程度の料金で済む）

昼頃関内駅に到着。混雑の中、下車してエレベータ・エスカレータを探すが見当たらない。　すかさず近くの駅員さんに尋ねた。「ありませんので、私が運ばせてもらいます」　「お～おラッキー」と心の中で叫び　駅改札口まで運んでもらった。

船に近づくにしたがってワクワク度が二乗に比例して上がっていく。この高揚感
「たまらんねえ！」と言いつつタクシーで大桟橋へ
「いるいるコスタビクトリア７万５千トン」も～お船を見るだけで満足なのに･･･
「これから乗船だぞ♪～　それも奥さんなしの一人で　わ～超楽しい　ランランのランだ」待合室の掲示版を見ると乗船時間がさらに遅くなり内側の部屋は 15 時半からの乗船とのこと。

船での昼食は断念して、荷物を預け、船員だった若き日に利用した海員生協で軽く食事をして、休憩のため冷房のある穴場の場所へ移動すると見覚えのある人物がパンを食べている。

さらに近づく　私がリタイヤする前に勤務していた職場のＳ君である。　彼とは、昨年乗船した「レジェンド・オブ・ザ・シーズ」の船上で偶然にもお会いしているが･･･　今回も？　　またまた偶然にも同乗である。

16 時半頃乗船して部屋に入る。荷物は届いていたので、さっそく荷物整理をして食事の案内カードを確認したら夕食は、5 デッキ後方のレストラン「シンフォニアで 20 時から 203 テーブルである」まだ時間があるので 11 デッキの「テラスグリル」でハンバーガーを食べてから避難訓練に参加　集合場所は左舷ボートデッキの F であった。（緊急避難訓練は、出港前に必ず実施しなければならないと国際法で決まっている）

訓練終了後、18 時 15 分からのマジックショーを最前列にて観覧　マジシャンが降りてきて私に手を差し出すので壇上へ　美女が箱詰めされて手と足のみが出ている。　その確認である。
その美女と硬い握手を交わしながら箱を確認した。　その後、美女は箱から消えてしまったのである。

ショー終了後、各ラウンジで演奏されている音楽を聞きつつ 20 時からのディナーへ
8 人テーブルで、ご夫婦・母娘・女性二人・私を含めた単身男性二人である。

食事後は、22 時から 7 デッキ前方の「コンコルドプラザ」にてウェルカムパーティーに参加。　クルーズスタッフと共にダンスを！（何となく体を動かしているだけなのに）楽しい！

出港は 18 時であったが外の風景を見ている余裕は無く、船内を流れる音楽に合わせ、体でリズムをとりながら･･･　さまよい歩きダンスを楽しんで一日が終わってしまった。

船内新聞「Today」を読みながら明日（もう今日）の参加イベントをチェックしながら眠りについた。

横浜大桟橋に停泊中の「コスタビクトリア」

二日目(23 日)

11 デッキのビュッフェにて朝食後、船内の探索へ　免税店・サウナ・スポーツジム等の場所を確認、また、サウナ・ジムを利用する際のロッカー使用方法を教えてもらった　朝起きると目の前が海である。なんとすがすがしいことか　海を見ているだけで元気になってくるこの不思議。

午前中は、11 デッキでのディスク投げトーナメント（ディスクを投げ、ある地点にどれだけ近いか

を競う）と 6 デッキグランドバー「オルフェウス」で行なわれるクイズ（地理）に参加。クイズは 10 問中 7 問正解であったが全問正解者が一人いて　残念！　賞品をゲットできなかった。
　午後はジムで、毎日自宅で行なっている筋トレ等の運動をしてからダーツトーナメントに参加したが一回戦敗退。

　本日は、フォーマルナイトであるため早めに部屋に戻りシャワーを浴びて和服に着替えた。
　本日のショーは 17 時半から本場イタリアのオペラである。が　その前に船長主催のカクテルパーティーが同じ場所のフェスティバル劇場で行なわれる。船長と写真撮影したい方は 6 デッキ入口からその他は 7 デッキからの入場（２階席）となる。

　和服姿で 7 デッキから会場へ入る。　会場内で S 君を見つけ隣が空いていたのでその席へ　S 君の反対側に座っている小柄な女性（A さん）が着付け師をしているとのことで、着付けが上手いと褒められる。　話をしていると美容院で和服の着付けも行なっているとのことであった。

　船長が壇上に上がり幹部船員の紹介が行われているのを私はノンアルコールのカクテルを飲みながら聞いていた。　続いて、オペラのショーが終わり、意気投合してしまった S 君・A さんと私は、A さんの提案で 3 人一緒にディナーをと言う事になり、　レストランに行って交渉した結果、船内中央のレストラン「ファンタジア」46 番テーブルを確保してくれた。（何でも無理を言ってみるものである）
　食事後は、「コンコルドプラザ」でのダンス選手権を友人の K さん等と見学。ダンス目的の乗客なのでさすがに華麗な社交ダンスを披露してくれる。　A さんは、デスコ（ジュリアナ時代）が好きらしいで、6 デッキの「ロックスターデスコ」を覗くが誰もいないとのこと・・・・　しかたなくグランドバーで 0 時頃までダンスをして解散　部屋に戻り着替えてお茶でもと思いエレベータホールへ、　そしたら K さんと再び遭遇。　「さっき休むと言ったのに何をやっているの？」　船内で知り合った年配女性 B さんとデッキで関門海峡の通過を見に行くとのこと。　それで私もお付き合いして結局 1 時半頃までデッキで海峡の両岸の風景や関門大橋の通過を眺めていた。後、数時間で釜山入港であるので、　関門大橋通過後、しばらくして解散した。

「私の使用したキャビン」

「12 デッキから 11 デッキのプールを撮影」

三日目(24 日)

早朝、釜山の入港風景を見ていて、一人参加の高齢男性 C さんと知り合う。
足取りもおぼつかないが･･･　一人で釜山市内へ出かけチャガルチ市場周辺で昼食をするとのこと。(一人で大丈夫かな？　こちらが心配になってくる)

着岸する岸壁には、すでに 30 台以上のツアー用のバスが停車している。

釜山では、S 君と射撃に出かける約束をしていて、5 デッキ中央のフロント前に 9 時待ち合わせである。
下船は、ツアー客が優先で自由行動の人は最後である旨のアナウンスがされている。

S 君と会って、下船は最後とのアナウンスがあったが、ツアー客について行けば下船できると思うので下船の準備をして待つこととした。

9 時半ツアー客の下船開始のアナウンスがあり、様子をうかがっていると日本人コーディネーターが自由行動の人も適宜下船可能ですと言ってくれたので、すかさず下船　タクシーで市内へと考えていたが･････
ゲートを通過したところに無料のバスが、釜山タワーのある公園と国際市場で下車が可能であるとのことである。　ラッキーとばかりに乗車　　走り出してから回りを見ると　乗客は外人ばかり　私の隣も･･･
単語を並べた英語で隣席の外人に話しかけたら　「コスタビクトリア」のスタッフであった。　このバスは、スタッフ専用バスとのことである。(が乗ったもの勝ち！)

国際市場で下車して市場内を散策後、南浦駅から西面駅へ地下鉄一号線に乗って移動、(券売機で 1200 ウォンの切符を買って初めての地下鉄乗車である) お店を探すのに少々手間取ったが、リボルバー３８口径で射撃を楽しむことが出来た。　その後、近くのロッテ免税店でウィンドショッピング　S 君は地下街でお土産を購入して再び南浦駅に戻り、「あわびのお粥」で昼食　満腹となったところで再び国際市場にて買い物、ついでにチャルチ市場の屋台で焼き栗を値切って 1000 ウォンで購入し、S 君と食べながら活気のある市場周辺を散策　時計を見ると 3 時近くになっていたので、タクシーにて帰船することとした。

船内を移動中、静かな図書室で長椅子に足を伸ばして休んでいる C さんを見つけたので話しかけたら、一人免税店の無料バスで市内に出かけチャガルチ市場近くで昼食をしてきたとのことであった。(年を取ってのこの行動力　いつまでもこうありたいと思う私であった。)

自室で少し休憩し、1630 から「本日のチャレンジ」という 11 デッキでのイベントに参加、このゲームは、両足の太腿にピンポン玉を挟んで、数メートル離れたビンまで歩いて行き、そのビンにこのピンポン玉を入れるのである。　入れる際は、何ともいえないトイレでの格好になる･････　2 回チャレンジしたが外してしまった。　このゲームで私と同じように色々なイベントに参加している元気の良い年配女性 D さんと知り合いとなる。

ゲーム終了後、D さんとそのご主人と一緒に同じデッキで 17 時から「バイバイ釜山!!!」に参加、クルーズスタッフと一緒に踊りながら　「バイバイ釜山」と大声で叫んで、離れていく釜山の港に別れを告げた。

休む間もなく、18 時からのコスタビクトリアダンサーズと歌手によるプロダクションショーを最前列にて観覧し、楽しい一時を過ごして、次はディナーである。
イタリア船なのか、必ずパスタ料理が付くが、食べ過ぎてしまうため、パスタ料理とスープ（独特の味がするので）はいつもパスすることにして、前菜の野菜類を 2 品オーダすることにしていた。

食事が終わると　ウキウキ･････　　そうです　本日のメイン～　イベント！
22 時からの 7 デッキ「コンコルドプラザ」での「トロピカルパーティー」
みんなで手を振り上げ　ゴーゴーゴーって感じでの踊りで場内は超満員！
熟年男女の熱気ムンムン　楽しくて　楽しくて　「もう♪どうにも♪止まらない♪」

休憩でテーブルへ、A さん、K さん、B さん、F さん、K さんが知り合ったダンスの先生と生徒さんの６名の女性に囲まれ私にとってこのクルーズでのこの上ない至福の一時であった。
いつまでも続いてほしい時間であったが、２３時で終了！
引き続き、このグループで移動して６デッキのグランドバーへ、先生と生徒さん・K さんは、ここで社交ダンスのレッスン、他にも社交ダンスの熟練の方々が踊っているのを見つつ･････
「ロックスターディスコ」がオープン！
元ダンサーの F さんの独壇場である。　彼女が踊っていると我々ロートルは入っていけない･･･　だが、F さんがお立ち台に上がれと　そう言われると･･･　頭を掻き掻き　スーットいつの間にか台の上へ　２人で台の上で踊っているのである。　奥の台を見ると A さんもまた往年の素敵な踊りを披露している。

「釜山チャガルチ市場」

「毎夜通ったロックスターディスコ」

年配の B さんは、椅子に座ったままで見ているだけ、私は、B さんの手を引きフロアーへ「一度も踊ったことがないんだけど･･･」「大丈夫！　大丈夫！」　かくして踊り始めた B さん　最後に「生まれて

初めて踊ったけどダンスってこんなにも楽しいものだなんて知らなかった」と言ってくれた。　時計を見ると 01 時みなさん引き上げ始めたので、私も退散することにして長い楽しい一日が終わった。

四日目（25 日）

朝食は５デッキ後方のダイニング「シンフォニア」にて、窓側をリクエストしたらオープン早々だったので中央二人席の窓際に案内された。　海を眺めながら一人ゆっくりと朝食を取り終えたが、席が良かったので食後のコーヒーをゆっくりと楽しんでいた。　すると朝日に照らされた長崎の街並みがゆっくりと窓の外を流れて行く。　長崎入港である。　08 時頃まで、この席で今日の予定を確認しながら過ごした。

船内新聞によると全員が 09 時 30 分までに入国審査を終了しなければならないことになっている。さっそく部屋に戻り準備をしてから下船し、ターミナル内で入国審査を終了させる。（といってもパスポートのコピーに押印するだけ）

長崎は、5 月に「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ」で寄港しているので大体の様子は把握している。　予定通り長崎市内を一望することが出来る稲佐山に行くことにして、市電で長崎駅前へ、ここからはバスである。　バス停で稲佐山行きのバスを待っていると C さんがとぼとぼと歩いて来た。

大丈夫ですか？と話しかけたら　「バス乗り場を間違えてしまって」と他のバス停へ移動して行った。いつも一人で行動している元気なお年寄りである。（近い将来の自分を見ているようであった）

15 分程待っただろうか稲佐山行きのバスに乗車、途中から貸切状態となり終点で下車したのは私一人であった。　終点のバス停から　のんびりと 20 分程度の木陰に入り涼しい風に吹かれながらのハイキングコースで山頂へ到着。　長崎の街が一望できる。
着岸中の「コスタビクトリア」も正面に見える。　気のせいか空気もおいしく感じる。

一休みしてから、今度は車道を下りて行き、先ほどのバス停から長崎駅前に戻った。

駅前から市電に乗り換えて、築町で下車　長崎中華街へ向うが 12 時前であったので、大半は修学旅行と思われる制服姿の学生さんで、一般客はほとんど見受けられなかった。　これ幸いと思い早めの昼食をいただくため目的の宝来軒を見つけてご当地名物の長崎ちゃんぽん　をいただいた。　具たっぷりのネットで紹介されている通りのちゃんぽんであった。

　食後、中華街を散策しながら再び築町から市電に乗り大浦天主堂下で下車、カステラで有名な福砂屋松が枝支店でお土産のカステラを購入し、「コスタビクトリア」の写真を撮りながら帰船した。

本日は、出港が 19 時で最終乗船時間が 18 時 30 分であるため、夕食のレストランは自由席で入った順に案内される。　私の正面は、年配女性二人で一人が元気のいい大阪の方である。　一年の内 1／3 は船に乗っているとのことで、話している内、来年の「ダイヤモンドプリンセス」に同乗することが判り、その方は既に部屋番号は判っているとのことで、部屋番号を教えてもらい、また、名詞もいただき、ダイヤモンドプリンセスの船上で再会することを約束して別れた。（下船後、メール交換して、今年 7 月のクルーズで再会、生バンドの演奏でダンスを楽しみ、食事を一緒にしたりして親交を深めました。）

本日のショーは、マイケルジャクソンのそっくりさんのショーで、食後すぐにフェスティバル劇場に行ったが超満員で座る席が無く、立ち見とのことなので、2 回目の 2130 からの公演を見ることにした。30 分前に通りかかったら、もう長蛇の列である。あわてて列に加わった。そこに F さんが通りかかり

私もということで順番を確保し、しばらくして２人で並び、娘さんの分を含めて３席を確保した。　娘さんは、身を乗り出して観覧し、他の客も結構興奮していたが、私は、あまり興味を持つことができなかった。（年のせいかなあ？）

　それよりも、コンコルドプラザで２２時から行なわれた「ミスターコスタビクトリア選手権」のほうが、腹を抱えて笑えるものであった。
派手なダンスをしている人をピックアップして、さらにカツラ等で女装させて、ダンスを競うものである。　金髪のカツラに最後は上半身裸になったりで、大爆笑のパフォーマンスを見せていただいた。（あすこまで自分の人格を捨てることができるなんて、凄い人たちである）

　この後は、いつものメンバーでのディスコタイムである。　今日は若い人達も加わって少しだけ華やいだ雰囲気でのディスコであった。メンバーでは、F さんと私が最後まで残り、ダンスの後、夜風にあたるため 11 デッキで満天の星空の下で、船が造り出す白い波頭を見ながらの･････（カット！）
で、今日も自室に戻ったのは１時半であった。

「稲佐山からコスタビクトリアを撮影」

「船の航跡に沈みゆく夕日」

五日目（26 日）
　朝目覚めると、船は台風の影響でだいぶ揺れている。うねりが船首にぶつかりガッガアンーという衝撃もある。　廊下を歩いている皆さん（私も含めて）左右に行ったり来たりで千鳥足である。　やっと船に乗っている気分になってきた。　船酔いでレストランが空いているかなあと思いきや　皆さん元気よく食事をしている。
　朝食を済ませ胃袋が活動を始めたら･････私が船酔いしてしまった。　ああ～
クルーズ最後の夜を楽しむために、午前中に荷物の整理をしてから、船酔いで少し横になっていたが、寝ている場合ではないと気持ちを取り直して室外へ

　午後のイベントの輪投げに参加しようと思ったら強風で 11 デッキでの開催は中止になってしまった。（後で船内で開催されたことを知り、参加できなかった方とアナウンス等で変更となったことを周知す

るべきですよねえ　と憤慨してしまった）　イベント仲間の D さんと遭遇、ご主人が船酔いしてしまって真っ青な顔をしている。　来年ピースボートで世界一周クルーズの予約を入れているとのことであったが、無理かもしれないと悲痛な表情で話していた。

　ピースボートは「オーシャンドリーム」という船で 3 万トンクラスだから揺れはもっとあるでしょう。でも D さんは、元気いっぱいでイベントにダンスレッスンに参加していた。
　本日のショータイムは、私達乗客も参加するカーニバル（仮装）パーティーである。
スタッフが乗客にフェイスペイントをしてくれる。
　前半の食事の方達のペインティングが食事後の 1930～2015 までとのことで、どのようなものか食事前（後半は 21 時～）に見てみようと会場のコンコルドプラザに行ったら、まだ開始前で 3 名ほどが並んでいたので、私もその列に加わってしまった。
　かくして、私の顔は、スタッフのキャンバスとなりペインティングされていく･･･
見ている人は、笑いながら親指を立て「グー」のサイン　私は、これから食事に行くので不安であり、「これでレストランに行ってもいいの？」と聞くと　今日は仮装の日
（ドレスコードは、マスカレード（イタリアンナイト））であるから OK のサイン。
後刻、私はレストランで注目を浴びてしまい、同じテーブルの幼児に不安そうな顔でジッと見詰められ泣き出すのではと･･････困惑してしまった）

　最後のディナーであったので、厨房スタッフによるフェアウェルイベントが音楽と共に始まった。音楽が鳴り響くと体が反応して♪音楽に合わせて体が動き始める。　厨房スタッフと女性添乗員さんが踊り始めた。　私も一人の添乗員さんを目指し、すかさず椅子から立ち上がりテーブルを後にしたが･･･他のスタッフにペアを組まれてしまった。　しかたなく、近くのテーブルにいた F さんを誘いだし踊りに加わってしまった。（元ダンサーなので、しっかりとリードしてくれ一人前に踊れた気分にさせてくれる。すごい！）　その後、レッツダンスでスタッフ・乗客が列を組んでレストラン内を踊り歩いて最高に楽しい一時を過ごすことが出来た。

　食事後は、仮装仲間がどんどん増えて、集合場所の 5 デッキホールは超満員となってしまった。　そこから会場であるフェスティバル劇場へ移動してパーティーの始まりである。　スタッフも仮装している。　全員総立ちでダンスをして、みんなでハイタッチ　熱気ムンムンでスタッフも乗客も心はひとつ、ここでも素晴しく楽しい時間を過ごすことが出来た。
　パーティーが終了して、部屋へ戻り荷物を廊下に出してから、今度はディスコへ･･･最初は、たくさん人がいたが、明日の下船にそなえて皆さん荷物整理のため部屋に戻っていく（01 時までに荷物を廊下に出さなければならない。廊下に出した荷物は、船側で集荷して税関のゲート前まで運んでくれるので、手荷物だけで下船できる。）
　最後は、私と K さんが船内で知り合ったダンスの先生の生徒さんと二人だけになってしまった。　二人だけで踊って、お互いにお礼を言って別れたのは 01 時頃であった。
　それから、お茶を飲みに 12 デッキ・ピッツェリアに行ったらダンスの上手な男性二人にお会いして 2 時半頃まで喋り込んでしまった。

「最後の夜のベットメイクはハートの白鳥」

「仮装パーティーでの一コマ」

六日目（27 日）

朝 7 時過ぎにデッキに出てみると、三浦海岸の沖を航行している。すると後 1 時間半ぐらいで横浜入港である。朝食を済ませてから、あまり写真を撮っていなかったので船内施設の撮影をしてから部屋に戻り最後の荷物チェックをしてから、歯磨きに洗面所へ入ったら歯ブラシ・歯磨き粉・ブラシ等がすべて無くなっていた。　部屋は 9 時までに退室することになっているが、まだ 9 時前である。客室係に時間前なのになぜ処分してしまったのかクレームを言ったが、戻ってくるわけでもないので諦めて部屋を退室した。（最後の最後に気分を害してしまった）下船時間は、11 時半の指定であったので、それまで５デッキ中央のホールで、次々下船していく人達を見送り、11 時過ぎに私も下船し、6 日間の楽しいクルーズが終了した。

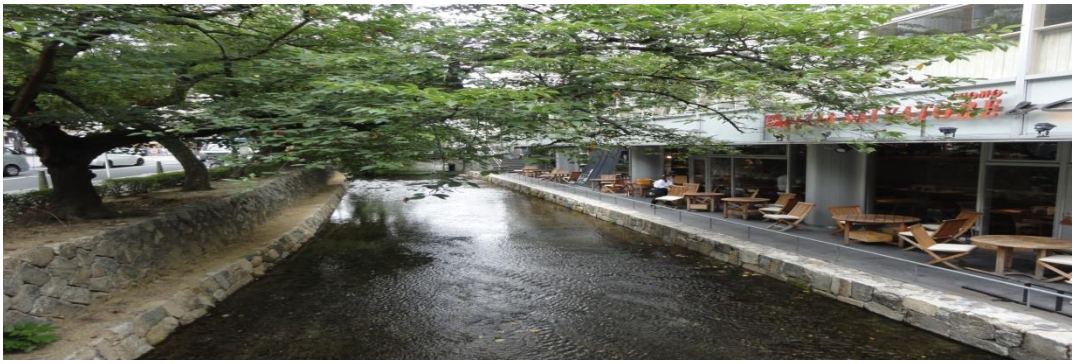
お世話になった皆さんありがとうございました。　今回で 6 回目のクルーズでしたが、船内でたくさんの方達と知り合うことができて、また、５月に「サンプリンセス」で同乗された方から声をかけていただいたり、今までで一番楽しいクルーズを経験することができました。　　また、いつの日かどこかの船でお会いいたしましょう！

「フェアウエルパーティでのスタッフによるダンス」

「山の見える三浦海岸沖を通過するコスタ」

京都衣笠懸門日誌

会員　森口宣高



（高瀬川往時）

二条から伏見まで、角倉了以によって造られた高瀬川往来

リッツ・カールトンから、みそそぎ川取水口、旧山形有朋公の別荘、

一の舟入、幾松（桂小五郎）の宿・佐久間象山・大村益次郎遭難の地をへて、日本映画発祥の地、先斗町歌舞練場をみながら、祇園の繁華街、い

わゆる、京の歌舞伎町的な、猥雑で人息にあふれる不夜城を経て、伏見へ。

ひと月あまりの京都滞在であったが、著名な神社仏閣、余すところなく、拝観するようないきおいで、朝から酷暑の京界隈を、散策したが、思わねば所、高瀬川がお気に入りになってしまった。

特に、豊臣秀次公一族を、弔う、慈舟山　瑞泉寺について、語ろう。

往時の鴨川の川幅は、現代よりも、大幅に広く京都三条河原の斬首場の、まさしくその場所に、瑞泉寺が位置しているのである。

秀次は、ご存知のように、高野山にて切腹したが、首はこの三条河原にさらされている。そして後日秀次の子、三歳から九歳までの男子４人女児１名が最初に可憐な最後を遂げ、そのあと目の前で

わが子の胸元を二刀刺しされた、上臈たち３４人斬首され、亡骸は河原にほった穴に、放置された。

「世の中は不昧因果の小車や、よしあしともにめぐりはてる」

刑がおこなわれたのは、九月五日午後四時、その日のうちに京都の街角には、こんな落首が貼られたとのこと。

瑞泉寺は浄土宗、近くには先斗町、錦市場いま京都で人々の日々の喧騒盛んな街の一角にあれど、訪れる人もなく、是非ご訪問を。

１０月は地代祭りに、京都北大路に、一週間滞在１２月は紅葉、真如堂・永観堂・東福寺めあてに、三条京都市役所近くに、数日滞在をします。さる７月は、金閣寺近く衣笠総門の、コンドミニアムにひと月ほど、滞在しました。

８部屋、外人さん半年以上の長期滞在がほとんど

４０平米２ベッド、キッチン・ネット・リネン、光熱すべて込みでひと月２０万、セキュリティもしっかり、窓から左大門字がみえ

朝夕、金閣寺の鐘楼の音をたのしみ、近くには生協と、有名なパンヤさんが数店あります。そうそう京都は日本一、パンの美味しい。

国内ロングステイは、手軽で自分の気に入ったスポットを、継続的

に探訪できるのがいいですね。

今回の７月一か月の滞在では、別表のように、浅く出来るだけ訪れて感じて、自分の感性にあった処、また事象や、すきな料理屋さんこれから、馴染みになっていければと思ってます。

諸先輩の京都に関するアドバイスお願いいたします。　健康寿命到達までに、好きに旅し、地産名産を味わい、自分の足で歩き回り、

ワンシーズンだけでなく、ここ１０年かけて、ロングスパンでの、京都プチロングステイし、楽しんでいけたらと思ってます。其の中で、これから高瀬川のように、あるときは京料理の店の若夫婦の仕事ぶりや、京都のかたの、「おもてなし」（表なし）祇王寺の住職さんにいわせると、裏ばっかりの京都人。

そういうことらしいですが、裏の心にも触れられたらなとも思います。

京都すてい報告でした。

主な京都の観光一覧（森口氏監修）

常寂光寺	嵯峨野	紅葉
二尊院		釈迦・阿弥陀二尊
野宮神社		縁結び
落柿舎		去来小さな墓
天龍寺		京都五山一位
車折神社		芸能神社
広隆寺	太秦	弥勒菩薩国宝
醍醐寺		花の醍醐
勧修寺		回遊式庭園
隨心院		小野小町・梅園
安井金比羅宮	祇園	崇徳天皇
法観寺		八坂の塔
清水寺		舞台
地主神社		縁結び
高台寺		ねね墓所
知恩院		法然上人
青蓮院		青不動門跡寺院
上賀茂神社	賀茂	社家
太田神社		カキツバタ自生
◎西通寺		比叡山借景庭園
妙満寺		雪の庭・トヨタ
比叡山		根本中堂
六角堂		池坊華道
真如堂		法然・虫干し
金戒光明寺	黒谷	幕末会津藩宿舎
吉田神社	吉田山	八百万の神
知恩寺		百萬遍さん
石清水八幡宮	八幡市	源氏氏神
酬恩庵	京田辺	一休寺
◎泉涌寺		御寺・皇室
◎即成院		平等院24楽器
今熊野観音寺		紅葉てら
戒光寺		身代り丈六さん
東福寺		
司聚院		大きな不動明王
雲雲院		細川遺愛石庭園
芬陀院		雪舟寺
蓮華寺	御室	石仏
清涼寺	嵯峨	嵯峨釈迦堂
檀林寺		門跡・菊花塚
祇王寺		清盛・祇王
滝口寺		新田義貞首塚
愛宕念仏寺		おだぎねんぶつでら
化野念仏寺		あだしの 〃
法輪寺	渡月橋	十三参り
常照寺	鹿が峰	吉野太夫
長岡天満宮	長岡京	道真所領
光明寺	長岡京	熊谷次郎直実
毘沙門堂	山科	睨みの龍
◎瑞泉寺	木屋町	秀次一族
◎石像寺	千本	釘ぬき地蔵

● 事前計画予約必要
◎ 自分のベスト神社仏閣
○ お勧め

岩倉実相院		新緑の床紅
東福寺		通天橋青紅葉
蓮華寺		洛北
源光庵	鹿が峰	迷い悟りの窓
松尾大社		お酒
鈴虫寺		鈴虫と抹茶と菓子
法蔵院		苔
三室戸寺		あじさい
宇治上神社	宇治	最古社殿
平等院		鳳凰堂音楽伽藍
光悦寺		鹿が峰
●妙喜庵	山崎	国宝待庵
金閣寺		金堂
○仁和寺		旧御所五重塔
法金剛院		蓮・沙羅双樹
妙心寺		
退蔵院		隔・陸の庭黒砂
龍安寺		石庭
護王神社		和気清麻呂
地蔵院		椿寺
大将軍八神社		武将像
清明神社		陰陽師
梨木神社		名水
萩山寺		紫式部自宅
誓願寺		縁結び石
曼殊院門跡		桂離宮似
●西芳寺		苔寺・特別拝観
千本釈迦堂		おまめさん
北野天満宮		秀吉お土産
平野神社		桜の名所
わら天神		安産の神様
千本閻魔堂		小野篁
白峯神社		幽霊の神様
○等持院		足利尊氏
大徳寺		台風で拝観中止
建勲神社	船岡山	織田信長が祭神
◎仲源寺	祇園	目やみ地蔵
理山不動院	一乗谷	他を抜く
詩仙堂		石川丈山36歌
○圓光寺		現代庭園圧巻
八大神社		宮本武蔵決闘
下鴨神社		糾の森
高山寺	高尾山	鳥獣戯画図
西明寺		石燈籠の寺
神護寺		空海
八坂神社		祇園祭
豊国神社		秀吉・国宝山門
方広寺		大鐘・国家安康
智積院		長谷川等伯障壁
養源院		血天井
◎三十三間堂		先手観音・通し矢
今宮神社		桂昌院・玉の輿
大徳寺		
○高桐院		細川家
大仙院		方丈建築国宝
龍源院		聚楽第庭園
瑞峯院		大友宗麟

アサヒビール大山崎美術館		武者人形
●サントリー山崎工場		ウイスキー
輪湯屋	島原遊廓	
角屋	島原遊廓	松の間
拾翠亭	京都御所内	九条家
大河内山荘庭園		大河内傳次郎
北山御厨美術館		北山
京都コンサートホール		北山
月桂冠	伏見	
黄桜	伏見	
寺田屋	伏見	薩摩切り込み
しょうざんリゾート		プール
	ボウリング	料亭
古田織部美術館		しょうざん
紅葉谷庭園		鹿が峰
堂本印象美術館		衣笠
●東森三玲美術館		吉田神社
平成26年		
7月5日 ～ 8月3日		
466, 064歩	15, 034歩	
354, 2km		
青紅葉		木漏れ日
苔		多種の苔むす庭
甘露水		神社で含む神水
蝉の音		関東と異なる音
緑蔭		透明な青空
比叡山からの琵琶湖		ジオラマ
予約拝観異次元の美観		
●仙洞御所		特別拝観
●京都御所		特別拝観
●修学院離宮		特別拝観
●桂離宮		特別拝観
●京都迎賓館		特別拝観
気になること		
法然上人		寺の姿勢
東森三玲		現代庭園
大津京		琵琶湖畔へ興味
高瀬川の清流		角倉了以
別格		
祇園祭		
	先祭り	月鉾
	後祭り	鯉山

京都五山	別格	南禅寺
一位	天龍寺	
二位	相国寺	
三位	建仁寺	
四位	東福寺	
五位	万寿寺	非公開寺院

TOEIC への再挑戦

会員　森川浩司

海外でロングステイをより楽しむためには、コミュニケーションが必須ですよね。行き当りばったりの、身振り手振りでのボディラングエッジももちろん醍醐味があって達成感もそれなりにありますが、もう少しレベルを上げての意思疎通を目指そうと退職後にねじり鉢巻きで Toeic へ再挑戦してみることにしました。動機は JICA シニアボランティアへの参加でしたが、今では海外旅行にかなり役にたっています。さて、試験への取り組みや会場での状況がどんな感じだったのか書いてみましたので興味のある方は読んで見てください。それでは始まり始まり！

私が電気通信会社に入って数年が過ぎた頃から国際化の波が押し寄せてきた。会社を挙げて英語熱が盛んになり、社内研修にも多くの講座が作られた。私の親友の 1 人が英語をできたので、自分はそれ以外の言語で自分を示そうとドイツ語を学び始めた。リンガフォン教材から始めて、外国語学校、ゲーテ・インスティテュートと渡り、ついには社内留学制度を利用して西ドイツにまで渡った。留学中の各国学生らの共通言語は、と言うとあの夢の世界語(?)、エスペラント語ではなくて、英語であった。ドイツ語はとても良く学んだが、これからの世界に出て行くには、英語が必須だと理解するのに時間はかからなかった。早速人事部に手紙を書き英国留学の追加許可をもらい、英語を本格的に身につける覚悟をした。(私も若かったなぁ)

あれから数十年、会社も退職し、社会に、世界に何かお役に立てないかと思い、JICA のシニアボランティアを受験することにする。そして、その語学試験を免除になるためには Toeic の点数証明書が必要ということがわかり、Toeic テストをやはり何十年振りかで受験することにする。

2006 年に得点形式や出題傾向を大幅に変更した新 Toeic テストが導入された。リスニング 100 問、45 分間の前半と、リーディング 100 問、75 分間の後半。共に得点は 495 点。つまり、120 分間の試験時間で満点 990 点である。どうせ受けるのなら満点を目指そうと、そのための勉強法を考える。

まず、勉強教材は CD も含め、全て近くの大学柏図書館で借りることにする。そして、演習でできなかった箇所を中心に、何度も練習する方式で、リスニングとリーディングの能力をそれぞれ高めていき、さらにマークシートへの書き写し時間の短縮などの試験テクニックを考案して、３ヵ月後には 120 分でも余ってしまう(少しだけ)時間配分で実試験にのぞむことになった。

私の試験会場は、東京のある大学の講義室。数百名の若い男女が中心だが、自分は十分に勉強したという自信があり、若いものには負けないぞ、と自負する。試験官の説明やスピーカーのチェックに続いて前半 45 分のリスニング試験が始まる。

写真描写問題、応答問題、会話問題そして説明文問題とスピーカーから英語の問題文が留まることなく流れてくる。耳がダンボになるくらい音に集中し、記憶し、問題用紙に書かれている４つの選択肢から正解１つを選び、マークシートの番号を間違いの無いように次々と塗りつぶしていく。

スピーカーが止まると試験は終了。直ぐにマークシートが回収される。

このテストでは、とにかく速読力が必要で次の問題が放送される前の僅かな時間に、次の設問の選択肢を読んでおかないと解答が間に合わなくなってしまう。もちろん、立ち止まって考たり、後戻りは命取りとなる。

次のリーディング・テストは直ぐに始まるが、肩の力を抜き、深呼吸をして、リラックスする。次の７５分間はそれぞれのペースで解答することができるが、周りからの猛烈なスピードで鉛筆を動かす音が聞こえてきて、焦る自分に気が付く。短文、長文穴埋め問題、そして最後の、１つと２つの文書を読んで解答する読解問題。１問４５秒以内でマークシートにまで書き込まないと時間内に１００問回答できなくなる。時計にも目をやりながら、アドレナリン全開状態で突っ走る。やった！全問回答した。何と１０分ほど時間を残しての終了だ。でも、もう見直すエネルギーも気力も残っていない。

疲れた２時間が終わり、抜け殻のように家路についたのだが、頑張ったという達成感と満足感は残った。後は結果が納得できれば万歳ということになる。私がラッキーだったのは、リスニングはイギリス英語が中心で耳慣れていたこと、リーディングは会社時代に遭遇、処理していたビジネス状況が中心の出題が多かったことで、30 日後の発表が待ち遠しい。

この回の全国受験者総数は 10 万 3 千人で、相変わらずの人気の高さだ。高得点に必要な語彙力と記憶力、文法と語法の習得は実ビジネスでも通用するもので、企業でも重要視している資格の一つだ。およそ Toeic900 点は英検 1 級、Toefl の 600 点に相当し、そのレベルを目指して何度も挑戦する人が沢山いる。(因みに Toeic830 点以上は国家資格、観光通訳士の語学試験が免除となる。)

オフィシャル・スコア・サーティフィケイト(点数証明書）が郵送されてくる前に、ネットで結果を見ることができる。郵送を待つべきか、ネット検索すべきか、それが問題だ？なんて言っていられない。パソコンを開く。今回の全国平均結果は、リスニング 313 点、リーディングは 266 点、トータル 579 点。日本の英語レベルは確実に上がっているし、皆、頑張っているようだ。自分の受験番号を検索する。おー！何とリスニングは満点だ、自分を褒めてあげよう。リーディングはどうだ、最後の長文読解で疲れが出て、少し点を落としたようだ。でも、トータルでは満点は逃したものの 900 点は軽く越えた。３ヶ月間の努力は報われたようだ。歳をとっても、実務から離れていても、やる気で学び直せば結果はついてくると言う自信につながった。

さて、JICA だが、語学試験はもちろん免除され、面接試験にも合格したが、渡航前内視鏡検診で胃潰瘍が見つかりドクター・ストップになってしまった。３ヶ月に及ぶ Toeic 集中勉強のストレスで潰瘍ができたのなら、笑い話しのような話しだ。歳をとってからのストレスはほどほどにと言う教訓でもあるようだ。

さて、どうでしたか？自分では楽しみながらやっていたのですが、知らないうちに胃に来ていたのですね。胃の丈夫な方、ピロル菌を除菌した方、やってみますか？

以上

９月座談会

９月１６日　（火曜日）にＬＳＣ９月座談会が、さいたま市市民活動サポートセンターにて午後１：３０分より開催されました。講師は、森川浩司氏でテーマは「ハワイ島ロングステイ」でした。出席者は、新井、峯尾、宮下、林、堀部、肥田、安田、田中（和）桂（ご夫婦）、大野の皆さんと座長の田中和義さんでした。この日は、正午ごろ強い地震があり、鉄道の運休などが懸念されましたが、無事開催できました。森川講師の、５週間にわたるハワイ島でのお話は、観光というよりは、むしろ冒険に近いもので、その熱弁に皆さん聞き入っておりました。

ロングステイクラブ四谷スクール

今年第三回目のロングステイスクールは、１０月１２日（日）午後１：３０分より１６：００まで東京・四谷ひろば２階　コミュニティー１にて開催されました。初めての東京開催でした。講演内容は、（１）マレーシア・タイの最新ロングステイ情報、講師は近畿日本ツーリストの楠見洋子氏、（２）海外ロングステイ留学情報、講師はＪＴＢガイヤレック　三澤尋子氏、（３）質疑応答と出席者自己紹介でした。今回は協賛としての旅行会社とのコラボレーションでもあり、講師との質疑応答も活発なものがありました。

（講演風景）

【編集後記】

★★★　ＬＳＣタイ国下見ツアーのお知らせ★★★

記

日時：２０１４年１１月４・５日～１１月１０日
ツアー先：タイ国　チェンマイ及びバンコク
総勢１１名で行ってまいります。チェンマイでは、銀行、病院、マーケット、ショッピングセンター、コンドミニアム・アパート等を見学、また観光の目玉としては、国際的に有名な１１月の満月の時に開かれる祭、ロイクラントを楽しみます。バンコクは、自由行動となります。帰国後に、ＬＳＣ座談会などで旅行の模様を発表いたします。

以上

『編集後記』
先日、ある会合で同席した方から聞いた話です。彼は数年前脳梗塞で倒れ、一命は取留めたが、手足に麻痺が残り、ゴルフもできなくなり失意の中にあった。リハビリに通ううちに、段々、快方に向かいリハビリの先生からサイクリングを薦められ、始めたところバランス感覚の回復が著しく、ゴルフもできるようになり、今ではツーリングバイクで日本各地を走っているそうです。埼玉にあるリハビリセンターの素晴らしさとツーリングの楽しさで、生きる希望を取り戻したそうです。最近はスポーツも多様化しており、本誌でも健康維持のための、いろいろなスポーツを紹介できればと考えています。

（大野記）

２０１４年　秋季号　Ｖｏｌ.９０
発行日　　２０１４年　１０月２６日
発行人　　塚本　茂
編集・校正　　大野康昭、秋本佳之
馬越治、中井川久男

☆ロングステイクラブの概要と入会について☆

＜目的＞

☆　ロングステイクラブは、快適な生活環境を求めて海外および国内で長期滞在を希望する方々を対象とし、その日常生活に必要な各種情報の提供や体験セミナーなどを通じて現地での「不安」「疑問」から解放して、生きがいのある滞在ができるように支援し、広く公益に貢献することを目的とします。

＜主旨＞

1. 自分の収入に応じて(主に年金等の範囲内で)
2. 自分の力で(体力・経験等に応じて)
3. 自分なりの方法で(単独・家族・友人等で)
4. 自分なりの生きがいを求めて(国際交流・語学研修・ボランティア・スポーツ等)
5. 海外で生活構築をする(ツアーでも移住でもなく)

そのための情報交換・友人作り・高齢化社会におけるシルバー世代の余暇活用を生き方の選択肢とし活動します。

＜主要活動＞

1. 月例会の開催(海外体験報告・海外滞在計画の発表・情報交換)
2. 地域別交流会の開催(東京・千葉・神奈川・埼玉・関西・九州)
3. 同好会活動(海外各国別の同好会・各趣味の同好会等)
4. 会員相互の自主企画による海外グループ旅行の推進
5. 国際交流活動(各国友好親会・ボランティア・語学研修・ホームステイ)
6. 会報「ロングステイクラブ」の発行

＜留意事項＞

1. 当会及びリーダー(名称の如何を問わず)は、会員が企画海外旅行・滞在・同好会の諸行事等において一切責任を負いません。参加者は一切責任が自己に帰することを承知の上で参加下さい。
2. 当会は、非営利の団体です。会員は当会の諸活動(例会・会報・会員名簿等)を営利目的に利用することを禁止されています。

＜入会＞

当クラブの主旨に賛同される方は、年齢・性別・国籍に関係なく、どなたでも歓迎します。

年会費

- **4000円（1月から12月）を下記口座にお振り込み下さい。**

お振込先口座

- **銀行口座**

  りそな銀行東京中央支店普通5807817

  ロングステイクラブ

  郵便振替

  00120-2-166202 ロングステイクラブ

NPO ロングステイクラブ事務局

〒337-0017

埼玉県さいたま市見沼区風渡野470

電話/FAX 受付:048-685-2470

E-mail:info@longstayclub.jp

特定非営利活動法人「NPOロングステイクラブ」の目的

この法人は、快適な生活環境を求めて海外及び国内での長期滞在を希望する人々を対象とし、その日常生活に必用な各種情報の提供や体験セミナーを通じて現地での「不安」「疑問」から開放して、生きがいのある滞在が出来るよう支援し、広く公益に貢献することを目的とする。（法人の定款第３条）

「**ロングステイクラブ**」は、登録商標です。

（登録第４５４６８１１号）

happy
Halloween